

## No.1903

2月23日例会 プログラム 「姓の話」 三宅 一昌君

3月2日例会 プログラム 「識字率向上月間に因んで」 松尾 洋二君

2月23日のメニュー ・若竹鍋 ・菜の花胡麻和え ・牛肉アスパラ巻き ・山菜そば ・ママカリ寿司 ・コーヒー

## 前回(2月16日)例会記録

出席報告	会員総数	38名(内出席規定適用免除者2名)	出席者数	23名	欠席者数	13名	出席率	63.89%	前回補正率	80.56%
	前回補正者	藤田君 谷口君 山田(孝)君								
	欠席者	緋田君 藤原君 花岡君 林君 東川君 井上君 松王君 三宅(孝)君 仲田君 中山君 大久保君 白石君 山田(次)君								

来訪者 小林 通宣様(玉野市社会福祉協議会 会長) 宮本 忠幸様(天満屋ハピータウン玉野店 店長)

### 会長挨拶

こんにちは。例会出席ありがとうございます。本日のお客様を紹介いたします。玉野市社会福祉協議会会長 小林 通宣様です。天満屋ハピータウン玉野店新店長の宮本 忠幸様です。ようこそいらっしゃいました。ロータリーの友2月号を読んでいたところ、大分ロータリークラブの山上 博資さんが投稿されていましたが、その中の文章で「85年前に和訳された言葉をそのまま使い続けたり、あまりにも格調高く厳格な解釈で進むことはこれからの日本のロータリーの発展性を損なうか、むしろマイナスに作用するように感じる」という意見がありました。先週、会長挨拶で話したことと同じ考えを持ったロータリアンがいたことで少し安堵しました。以上会長挨拶と致します。では、お食事をどうぞ。

### 会長報告

- 先週お願いしました拉致被害者家族支援義援金の募金合計金額は5,730円でした。
- 岡山中央ロータリークラブ主催の高齢者セミナー開催の案内が届いております。  
3月17日(土)14:00~16:30 岡山国際交流センター2F 国際会議場にて。

### 幹事報告

- 児島ロータリークラブより創立40周年記念誌が届いております。
- 兵庫県立芸術文化センターより舞台芸術鑑賞の案内が届いております。
- 新宮ガバナー事務所より「第8回ロータリー国際囲碁大会」開催の案内が届いております。毎年春に日本、韓国、台湾の順で国際大会を開催しており、今年は4月13日(金)から15日(日)の3日間韓国・大邱市で開催されます。
- ハイライトよねやま84号が届いております。
- 他クラブの週報・例会変更通知は回覧致します。

### 2月2日理事役員会議事録

- 玉野総合医療専門学校の奨学金増額について。 現2万円を3万円に増額することに決定。
- プロ野球オープン戦「広島-阪神」観戦招待チケットについて。 購入しない。
- 玉野市ボーイスカウト育成会 平成18年度参与会費納入依頼について。 了承。
- 拉致被害者家族支援義援金について。 例会にて募金箱を回す。
- フィリピン モンテナショナルロータリークラブよりメールにて姉妹縁組の案内あり。 県南18RC幹事会で他クラブの対応を聞いて検討する。
- 会員職場優良従業員の表彰について。 ダイヤモンド瀬戸内マリンホテルより1名の推薦あり。
- 5月18日、19日大阪リバーサイドロータリークラブ来玉の件。 大阪リバーサイドRC幹事清水様と相談し進めていくことを確認する。
- 職業奉仕 難波委員長及び新世代活動 三谷委員長の退会に伴う後任委員長について。 職業奉仕委員長は緋田君、新世代活動委員長は三宅(照)君にお願いする。

## 羽賀会員退会挨拶、宮本忠幸新店長挨拶

羽賀会員退会挨拶：2月16日付けで本部経営企画室へ異動になりました。5ヶ月という短い期間でしたが、ありがとうございました。今後もハピータウン玉野店をよろしく願い致します。

宮本忠幸新店長挨拶：昨日から引継ぎでこちらに来ております。仕事以外で活動できることを嬉しく思っております。右も左も分かりませんがよろしく願い致します。

## スマイル・ボックス

- ・羽賀君 - 突然の人事異動で本人が一番とまどっています。本部の経営企画室に赴任します。短い間ありがとうございます。
- ・島田君 - 小林様、ようこそいらっしゃいました。
- ・高橋(秀)君 - 小林様、ようこそいらっしゃいました。
- ・小野田君 - 岡山県ソフトテニス連盟会長に再任されました。
- ・富永君 - 羽賀さん、ありがとうございました。
- ・石川君 - 羽賀さんのご栄転を祝して、宮本さんを歓迎します。
- ・藤田君 - 富永さん、お水を買ってくれてありがとう。入会月。
- ・谷口君 - 前回欠席。
- ・三宅(照)君 - 早退。

## プログラム 「玉野市の社会福祉について」 玉野市社会福祉協議会 会長 小林 通宣様

皆様、こんにちは。紹介いただきました小林 通宣です。立石さんから社会福祉の現状についてというテーマを頂き、この機会に社会福祉協議会について少しお話をさせていただきたいと思います。社会福祉協議会をご存知でしょうか。玉野市社会福祉協議会の設立は昭和26年3月1日で現在55周年になります。そして昭和40年8月30日に社会福祉法人の認可を頂き現在に至っております。運営につきましては、企業・各種団体から理事(15名) 監事(2名) 評議員(31名)を選出頂き、定款に基づき合議制で運営にあたっております。



事業ですが、人件費や事業費の一部に公費の助成を得ながら、先駆的な事業や、行政が責任をもって運営しなければならない事業のうち、民間色を生かした運営が要求されるものについては、社協が運営にあたっています。事業の内容も児童から高齢者にいたる幅広い福祉事業を受託運営し、また独自事業を合わせますと30事業を超える多岐にわたる福祉事業になります。職員数も嘱託職員・パート職員を含めると180人以上の組織になります。主な財源ですが、賛助会費、寄附金、共同募金配分金、市等の補助金・委託金、基金の運用益、介護保険事業からの収益で運営しています。

市内に中学校区ごとに7ヶ所の在宅介護支援センターと基幹型在宅介護支援センター1ヶ所が設置されて、地域の高齢者に関する実態把握、介護予防、介護支援、福祉サービスの情報提供、調整など幅広い支援を担ってきましたが、昨年の介護保険制度の改正で全ての在宅介護支援センターが廃止され、平成18年4月より新たに「地域包括支援センター」の設立が示されました。内容ですが、国は公平・中立性の観点から、さらに設置主体である市町村の責任を重視していく意味合いから、運営は原則として市町村直営の方針が示されました。それを受けて県内29市町村のうち直営が23市町村、社会福祉協議会へ委託6市町村、公社委託1市町村という状況でした。それまであった在宅介護支援センターを地域包括支援センターのサブセンターとして存続させる市町村がほとんどで、当市のような改革は他に例がないことでした。社協はこれまで在宅介護支援センターを受託しておりませんでしたので、社協と違った地域との繋がりを築いてこられた8ヶ所の在宅介護支援センターが担ってきた活動がたった1ヶ所の地域包括支援センターでできるのだろうか。また要支援認定者の推計から職員数を計算しますと、20人を超える有資格者、保健師・看護師・社会福祉士・ケアマネが必要でしたので、人材をいかに確保するのが大きな問題でした。また資格の割に安い給料で、正規社員でなく嘱託職員という身分での募集は、予想の通りなかなか確保できませんでしたが現在22名の職員になりました。新規採用18名、社協内部異動4名で頑張っておりますが職員の中には若い人が多く、高齢者(老人)との付き合い方が大きな負担になっているようです。しかし関係機関の皆さんにご指導を頂きながら元気を出し、少しずつではありますが住民の方々にも信頼を頂けるようになっております。今まで8ヶ所あった在宅介護支援センターでの全ての活動が地域包括支援センターで補えるとは思っておりません。しかしながら玉野市社会福祉協議会は、誰もが安心して、生き生きと暮らすことのできる福祉のまちづくりの実現に向け進めてまいります。今後とも一人ひとりの住民の方々をはじめ、コミュニティ・医療・保険・福祉サービス従事者・企業・行政機関などなど、各方面からのご支援、ご協力をより一層よろしく願い致します。ありがとうございました。